

## 商業部会

### 研究主題 「課題研究における個に応じた指導の充実と指導改善の工夫」

#### I 研究の目的

平成8年7月の中央教育審議会第一次答申において、自ら学び自ら考える力である「生きる力」の育成を目的に、教育内容の厳選と基礎・基本の充実を図り、児童・生徒一人一人の個性を生かすための教育を推進することなどが提言された。産業教育においては、平成10年7月の理科教育及び産業教育審議会の中で、生徒の多様化に対応し、学習の選択幅をできる限り拡大し、生徒一人一人の個性を育て伸ばしていく教育の展開などが答申された。

そのため、今回の学習指導要領の改訂では、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成が重視されている。商業教育においても、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるための科目として平成元年の高等学校学習指導要領の改訂から新設された「課題研究」が、今回の改訂で原則履修科目に位置付けられた。しかし、「課題研究」は、生徒の興味・関心、進路希望等に応じて取り組む科目であるため、これまで評価規準や指導法についての研究が必ずしも十分に進められていなかった。

そこで、本研究では、「課題研究における個に応じた指導の充実と指導改善の工夫」を研究主題に設定し、評価規準、各授業の展開例や各評価観点ごとの評価規準を明確に提示し、それを活用した授業実践を通して、個に応じた指導の更なる充実を図るとともに、授業改善と評価方法の工夫に取り組んだ。

#### II 研究の方法

「課題研究」の扱う内容としては、「調査・研究・実験」、「作品制作」、「産業現場等における実習」、「資格取得」という多岐に渡る4つの内容が学習指導要領では示されている。

生徒は、興味・関心、進路希望等に応じて、これら4つの内容の中から自ら課題を設定し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなどの活用を通して商業の専門的な知識と技術を深化させるとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付けることになる。

そこで、本研究では、まず「課題研究」としての評価規準を作成し、次にこれら4つの内容の授業展開に応じた内容ごとの評価規準について研究を進めた。さらに、「産業現場における実習」については、これまで十分な授業実践の例示がされていない現状があるので、本研究ではその提言を行うことにした。

#### III 研究の内容

##### 1 「課題研究」の評価規準について

「課題研究」は、「調査・研究・実験」、「作品制作」、「産業現場等における実習」、「資格取得」という多岐にわたる内容から構成されているため、各内容共通の評価規準を作成

することは難しい。そこで、「課題研究」の目標から4観点に基づく評価規準を研究し、この評価規準を基に4つの内容ごとの評価規準について検討し、指導法及び評価方法の工夫に取り組んだ。

評価の観点の趣旨（共通）

| 関心・意欲・態度                      | 思考・判断  | 技能・表現  | 知識・理解   |
|-------------------------------|--|--|---|
| ・自ら設定した課題に対して自ら進んで取り組もうとしている。 | ・自ら設定した課題の解決に向けて年間の計画や見通しについて思考し、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、適切に課題解決を図る能力を身に付けている。 | ・自ら設定した課題に対して、これまで身に付けた基礎的・基本的な技能を活用し、処理するとともに、その成果を的確に表現する。 | ・自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識が身に付いている。<br>・問題解決の過程で得た知識を自分の知識として活用している。 |

## 2 各内容の評価規準

「課題研究」では、生徒が設定する課題ごとに授業の展開や指導方法が大きく異なるため、ここでは、内容に応じた学校の事例を紹介する形で研究成果をまとめた。

### (1) 「調査・研究・実験」における授業事例と評価規準

都立A高等学校では、「課題研究」を3単位で実施している。「調査・研究・実験」の授業事例として、フィールドワークによる市場調査などマーケティング活動の意義を学ぶ内容を紹介する。なお、この授業は体験的な内容を多く実施し、社会性を身に付けさせることで、将来の社会人としてのマナー教育も実践している。

年間指導計画

|     |                 |              |           |               |
|-----|-----------------|--------------|-----------|---------------|
| 1学期 | オリエンテーション       | テレビ局・造幣局校外研修 | 修学旅行先企業調査 | 外部講師による接客講座実習 |
| 2学期 | 文化祭に向けた企画検討及び発表 | 商店街研究        | 広告論文制作    | ビジネス中国語会話研究   |
| 3学期 | 商品研究・実験         | 課題研究成果発表会    |           |               |

1学期では、まず生徒に年間指導計画を理解させた上で、校外研修の趣旨や研修目的を理解させ、綿密な準備計画、事前指導を行う。

また、修学旅行では訪問する地方企業の調査をさせたり、旅行中に解決すべき課題を事前に説明したりする。外部講師による接客実習については、就職指導をする上でのよい動機付けとする。

2学期では、文化祭を利用して、主体的に判断し課題解決を図った学習を通して得た成果を、中間発表する機会を設けるようにする。フィールドワークとしては、地元の商店街研究を実施する。さらに「マーケティング」のプロモーションに関して指導した上で、広告論文制作に取り組ませる。3学期では、流通している食品のパッケージについて研究させるとともに、成分表示を学習させ、実際に糖度計や塩分計を使った商品実験を試みる。年度末には、1年間の課題研究の成果を報告書にまとめさせ発表することでプレゼンテーション能力を養う。

「課題研究」の評価の観点の趣旨（調査・研究・実験）

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断   | 技能・表現  | 知識・理解   |
|--|---|--|---|
| ・設定したテーマについて、自ら進んで取り組もうとしている。<br>・校外研修協力機関への報告や礼状の作成に自ら進んで取り組んでいる。 | ・自ら設定したテーマに対して研究日誌等により、計画性を持った学習を進めている。<br>・基礎的・基本的な知識や技術を活用し、適切に資料収集等ができる。 | ・自ら設定したテーマに対して、これまで身に付けた技能を活用し、データ処理・分析するとともに、その成果を適切に表現できる。 | ・様々な研究過程を通じて調査研究目的に関しては知識が身に付き理解することができている。<br>・様々な商品実験等から基礎的・基本的な技術が身に付いている。 |

評価方法としては、自己評価、相対評価、教師評価、成果物などを観点別に評価する。

また、校外学習等による体験的授業が多いことから体験的授業時の行動や態度、体験的授業の学習過程を、重視した評価方法を取り入れる。

## (2) 「作品制作」における授業事例と評価規準

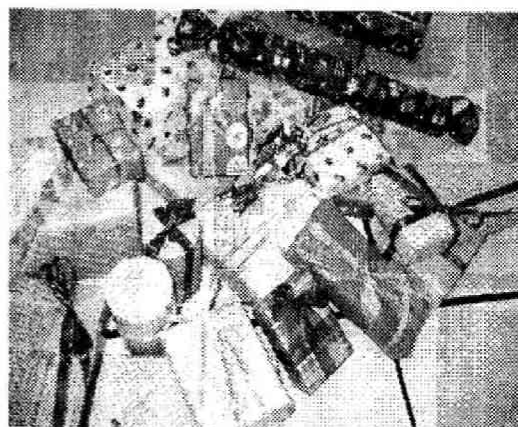
都立B高等学校では、「課題研究」を2単位で行っている。「作品制作」の授業事例として、ラッピング制作の内容を紹介する。



ラッピングとは、品物を包むことであるが、品物や目的、相手との間柄等によって、様々なラッピングの方法がある。また、商業用ラッピングやギフトラッピングなど、対象によってもラッピング方法は様々である。ラッピングの意義や意味を十分理解し、ラッピングの基本である「品物を大切にすゝる気持ち」と「相手を思いやる気持ち」を養い、「心を贈る」ためのラッピング方法を研究していく。

学習方法としては、1学期にラッピングの意義や意味を十分理解させ、ラッピングには様々な方法があることを学び、基本的なラッピング方法について実習する。2学期には、様々な形状の品物をラッピングするための技術を習得させ、TPOにあわせたラッピングを行う。

また、自らが習得したラッピング方法を応用し、独創的なラッピングの開発を行う。そして、文化祭でそれらの研究発表を行う。3学期には商業用ラッピングにおいて、一つの形状の品物を一定時間にどれだけ多く、きれいにラッピングできるか、「オリシッピング」と題して実施している。



年間指導計画

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 1学期 | ラッピングの意味や意義 基本的なラッピング方法 |
| 2学期 | 応用的なラッピング技術 文化祭発表       |
| 3学期 | ラッピングテスト 現場見学・実習        |

また、実際の現場で、商品がどのようにしてラッピングされているのか、デパートや、小売店で見学をする。また、お店でラッピング実習を行い、お店の方やお客様から指導や評価をいただく

### 「課題研究」の評価の観点の趣旨（作品制作）

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断  | 技能・表現   | 知識・理解                        |
|---|--|---|------------------------------|
| ・ラッピングについて関心があり、教員の指導を常に真摯に受け止め、自ら成長していくという態度で自ら進んで取り組んでいる。 | ・様々な形状のものをどのような方法でラッピングするか自ら判断し、状況に応じたラッピングを行うための能力が身に付いている。 | ・早く、正確にラッピングを行い基礎・基本をもとにして、独創的なラッピングに挑戦し、受け手が感動できるラッピングを行うとともに、成果を的確に発表・表現する。 | ・ラッピングに関する基礎的な知識・技術が身に付いている。 |

いている。

評価方法としては、自己評価、相対評価、教師評価の他、ラッピングテストや「オリンピック」の成績、発表の準備・内容についても評価に加える。また、校外学習等については、現場見学・実習や学習過程についても重点を置いて評価を行っている。

### (3) 「職業資格の取得」における授業事例と評価規準

都立C高等学校では、「課題研究」を2単位で行っている。「職業資格の取得」の授業事例として、日本商工会議所主催販売士検定の資格取得を目指す講座の内容を紹介する。

近年の小売業を巡る動きは目覚ましく、企業にとっては流通環境の変化及び消費者のニーズに的確かつ迅速に対応することが必要となっている。このことは、私たちの身の周りに品ぞろえ・陳列方法・接客方法など明確なコンセプトをもった店舗等が登場していることからわかる。販売士としての知識と技術、さらには販売に関する専門的な知識を身に付けることは、将来、販売職を目指す生徒の進路に役立つものである。

C校では下表から生徒自らがコースを選び、資格取得を目指してそれぞれの目標にそった学習計画を立てている。

1級の目標としては、小売業経営に関する高度の専門的な知識を身に付け、経営計画を立案し、総合的な

| コース・月      | 7月3級試験 |   |   | 10月2級試験 |   |   | 2月1・3級試験 |    |    |   |   |
|------------|--------|---|---|---------|---|---|----------|----|----|---|---|
|            | 4      | 5 | 6 | 7       | 8 | 9 | 10       | 11 | 12 | 1 | 2 |
| ① 1級受験     | 1級対策   |   |   |         |   |   |          |    |    |   |   |
| ② 2・1級受験   | 2級対策   |   |   |         |   |   | 1級対策     |    |    |   |   |
| ③ 2級受験     | 2級対策   |   |   |         |   |   | 2級対策     |    |    |   |   |
| ④ 3・2・1級受験 | 3級対策   |   |   | 2級対策    |   |   | 1級対策     |    |    |   |   |
| ⑤ 3・2級受験   | 3級対策   |   |   | 2級対策    |   |   | 2級対策     |    |    |   |   |
| ⑥ 3級受験     | 3級対策   |   |   | 3級対策    |   |   |          |    |    |   |   |

管理業務を遂行できるようにすることがあげられる。2級の目標としては、小売業について、主として販売に関する専門的知識を身に付け、ある程度の管理業務を遂行するとともに、部下を指導することができるようにすることがあげられる。

3級の目標としては、販売員として基礎的な知識と技術を身に付け、販売業務を遂行できるようにすることがあげられる。そして、これらの目標・学習内容に対応した評価規準は次ページのとおりである。

なお、評価については、各級に応じた学習内容の知識・理解など客観的なものとするが、日誌・作文・レポート・感想文・出席状況などを総合的に評価し、さらに、販売職を目指す者の心掛けとして、身だしなみ・言葉遣い・態度なども評価の対象とする。

講座の課題としては、販売士検定が平成18年度から試験科目体系が変わるので、それに対応していくことが必要である。また、全国商業高等学校協会主催の商業経済検定試験とのリンケージも視野に入れながら、生徒が自ら課題を設定し、目標を達成することが望まれる。さらに、販売士の知識を体験的に学ぶため、販売実習や職場見学等の実施が求められている。

「課題研究」の評価の観点の趣旨（職業資格の取得）

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断   | 技能・表現   | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| ・販売士の諸活動について広く関心をもち、その意義や役割に関心をもち、職業資格の習得に意欲的に取り組もうとしている。 | ・販売士の諸活動に関する諸課題を把握し、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、適切に課題解決を図る能力が身に付けている。 | ・販売士の諸活動に関する諸課題に対して、これまで学んだ基礎的・基本的な技術を活用し、販売士として、求められる成果を的確に表現する。 | ・販売士に関する基礎的・基本的な知識が身に付いている。<br>・課題解決の過程で得た販売士としての知識を新たな課題解決で活用している。 |

### 3 課題研究におけるオリエンテーション

多くの学校では、「課題研究」を履修させる際にオリエンテーションを行っている。オリエンテーションで説明すべき内容の例として「都立D高等学校における課題研究のオリエンテーション資料」を例示する。オリエンテーションでは、「課題研究」のねらいを示すとともに、どのように課題を設定し、どのように課題解決を図るのかについて具体的に説明する必要がある。また、評価方法についても十分に周知することが重要である。その際、評価規準等についても明確にすることが望ましい。

都立D高等学校における課題研究のオリエンテーション資料

(1) 「課題研究」とは・・・

君達3年生は、これから週2時間「課題研究」という科目に取り組むこととなります。この科目は、キャリア・プランの考え方に基づいて、君達一人一人が

- ①各自で課題（テーマ・目標）を見つけ、自分で解決するための計画を立て【Plan】
- ②課題の解決（目標の達成）に向けて学習（研究）し【Do】
- ③その学習（研究）の結果を評価・反省をして、新しい課題（テーマ・目標）を定める【See】

を行う科目です。この科目では、学習の結果（各自が目標をどの程度達成できたか）とともに、学習の過程（主体的・計画的に取り組むことができたか）が重視されます。

また、「課題研究」は、これまでのような『先生が説明したことを覚える』をいった授業ではありません。先生たちの指導・助言を受けながら『自分で調べる・自分で考える』という授業です。

(2) この授業の中で身に付けてほしいこと

「課題研究」の授業を通じて、君達に身に付けてもらいたいことが2つあります。

第1は、自分で設定したテーマ・目標を達成するための『知識・技能』を身に付けてもらいたいということです。例えば、テーマ「漢字検定」の生徒には、漢字検定に合格するため、漢字に関する知識を深めてもらいたいと思います。あるいは、「ラッピング」の生徒には、包装に関する知識を深め、実際に様々な包装が行えるよう、その技術を身に付けてもらいたいと思います。

第2は、自分で学習する態度や能力など『自己教育力』を身に付けてもらいたいという

ことです。『自己教育力』とは、自分で課題を見つけ、自分で解決するための計画を立てその計画を実行し、課題を解決することができたか自分で結果を評価・反省できる態度や能力のことです。これは、君達が長い人生を送っていくにあたり、仕事面でも、家庭生活の面でもとても大切なこととなります。

### (3) 学習日誌・学習報告書の作成と提出

「計画→実行→反省」という学習（研究）の流れ全体を評価するため、『学習日誌』または『学習報告書』を提出してもらいます。学習（研究）を計画的に進めているか、態度や成果を自分で評価・反省できているか、失敗などの原因を究明し改善しているかを、この日誌や報告書を通じて判断します。したがって、日誌や報告書を提出しない場合は、せっかく検定試験に合格したり素晴らしい作品（成果）を制作（発表）したりしても、評価は低くなってしまいます。しかし、逆に目標やテーマが達成できなかったとしても、それをきちんと反省し、失敗などの原因を究明し改善しようとしていることが日誌や報告書に表されていれば、高い評価を受けることになります。

### (4) 修了作文の作成

3学期の終わりには、学習日誌や学習報告書のほかに『修了作文』を提出してもらいます。この『修了作文』とは、1年間の課題研究を振り返って、1年間全体を自分自身で評価・反省し、将来の生活の目標・課題・計画を報告してもらうためのものです。

評価や取り扱いは(3)で示された学習日誌・学習報告書とまったく同じです。判断の1つになるので、しっかり取り組んでください。

### (5) 文化祭や学習成果発表会での研究発表

各分野とも、2学期に『文化祭』での研究発表、3学期に『学習成果発表会』での研究発表を行います。担当の先生のアドバイスを受けながら、年間学習計画に沿って、研究発表のテーマを考えましょう。また、同じテーマで学習（研究）している人達と相談して、共同研究をしていくのもよいでしょう。素晴らしい研究発表を期待しています。

### (6) 「課題研究」の評価

#### ○学習（研究）の過程に対する評価について

学習（研究）の過程に対する評価は、学習態度の評価と出席状況との評価があります。

学習態度とは単純な授業態度ということではなく、「計画→実行→反省」という学習（研究）の流れ全体を指すものです。これは、単に静かに先生の説明を聴いていればよいというものではありません。「課題研究」では、ただ先生の説明を聴いているだけでは、評価されません。学習態度は、次のような6つの観点で評価します。

- ① 学習（研究）に対して意欲・関心をもっているか、自分から積極的に学習（研究）に取り組んでいるか。
- ② 学習（研究）を計画的に進めているか、物事を順序だてて考える姿勢があるか。

- ③ 問題を合理的に解決する力があるか、柔軟な発想や創意・工夫があるか。
- ④ 学習（研究）に粘り強く取り組んでいるか、ムラがないか、計画を達成しようとする姿勢があるか。
- ⑤ 自分の学習（研究）態度や成果を自分で評価・反省できているか、失敗などの原因を究明し改善しようとする姿勢があるか。
- ⑥ 他の生徒と協力して学習（研究）を進めているか、他の生徒に迷惑をかけていないか。もちろん授業での遅刻が多い、教材などの忘れ物が多い、授業中の態度やマナーが悪い、授業に積極的に参加しないといった場合は評価が下がります。

出席状況については、授業への取組の姿勢として評価され、具体的には遅刻・早退・欠席の状況を評価に加えます。

○学習（研究）の成果に対する評価について

学習（研究）の結果に対する評価方法は、分野やテーマによって異なります

例) 研究発表、作品やレポート、ペーパーテスト・実技テストや検定試験

なお、学習（研究）結果に対する評価は、各自の目標やテーマに対する達成度によって評価を行います。例えば、資格取得を目指している人達の場合、3級合格が目標の人は3級の範囲をどれだけ理解できたか、1級合格が目標の人は1級の範囲をどれだけ理解できたかが評価の基準になります。

「課題研究」の評価

|                 |             |      |
|-----------------|-------------|------|
| 学習（研究）の過程に対する評価 | 学習態度（学習日誌等） | 30点  |
|                 | 出席状況        | 20点  |
| 学習（研究）の結果に対する評価 | 知識・技能・研究成果  | 50点  |
| 合計              |             | 100点 |

4 新たな課題研究の提案（産業現場等における評価規準）

「課題研究」で扱う内容のうち、「産業現場等における実習」については、地域や産業界等との連携等の難しさから、これまで学校における実践が必ずしも十分に進められてこなかった。そこで、本研究では、「産業現場等における実習」の授業展開や評価規準について提言することにした。

(1) 「課題研究」（産業現場等における実習）の目的

産業構造の変化、国際化・情報化の進展等により社会が大きく変化をしている今日、高等学校もあらためてその存在意義が問われている。商業教育に対する社会の期待や様々な教育ニーズの多様化に対応するためには、学校、地域社会及び産業界との連携や中学校等との結びつきをより一層深めていくことが必要である。その連携から商業高等学校における知的資源や商業に関する知識、能力を地域社会に生かすプログラムを「課題研究」で実施することを提案する。商業教育がこれまで出前授業や地域行事への参加から中学校との連携や地域社会への協働を進めてきた実績を活用することにより、新たなネットワークや

様々な問題発見・解決を学び、将来のための起業家精神や経営に関する知識を養うことを目的としている。そして、これらの活動の中から社会活動やビジネス活動において最も大切にしなければいけない事柄を生徒自身が発見し、そのためにどのようにすればよいかを導き出す力を「産業現場等」における実習の中で育成させる指導を行う。

## (2) 課題研究「産業現場等とのコラボレーション」

### －大学等の学生食堂におけるランチメニューのプロデュース－

産業現場等における実習の例として、大学等の学生食堂における経営に関する企画について提案する。この課題研究のメリットとして、生徒の進路実現にもつながることがあげられる。大学への進学を目指す生徒にとっては、大学のキャンパスでの活動を通して大学の環境や大学生との交流を身近に体験することができ、進路の判断材料になる。



また、食堂という比較的イメージしやすい調査内容を通して経営活動を学ぶことで、企業の在り方や仕事の実情などを身近に捉えることができる。さらに、企業に対して自らの考えた企画を提案することができれば、起業家精神（アントレプレナーシップ）教育の原点である精神的にも経済的にも自立した個人として、問題意識をもち、商業高校で学んだことを生かした体験学習ができ、既存の社会の仕組みをよりよく変革していける人材の育成を目指すことができる。

大学等の学生食堂におけるランチメニューのプロデュースの具体的な学習内容は、大学等における学生食堂の利用状況の市場調査を行い、利用者の利用状況やニーズ等を探るとともに、新たな商品としてのランチメニューの企画・提案を行う。高校生らしい発想力豊かで若々しい創造力による大胆な提案が期待できる。

## (3) 実際の産業現場との連携の事前準備

産業現場との連携をするに当たり、大学等の事務局と食堂経営業者に対して商業教育における「課題研究」の意義を十分に説明し、理解を得ることが重要である。そのためには、日ごろから出前授業やキャンパス訪問など高大連携事業を進め、学校間の円滑な協力体制を整える必要がある。

また、生徒に対する事前学習・事前指導は欠かせない。キャンパス訪問の際などに学生食堂がどのように利用されているのかを調査したり、大学生等に対してランチメニューに対する希望調査等を行う必要があるため、大学生や社会人と接する際のマナー等について指導する必要がある。さらに、日ごろの授業での発表や調べ学習を通して、自らの考えをどのように伝えるかなどコミュニケーション能力を育成する学習を充実させる必要がある。



(4) 年間指導計画の例

|            |  |      |                         |                |
|------------|--|------|-------------------------|----------------|
| 教科・科目      | 課題研究<br>(産業現場等における実習)  | 3単位  | 対象学年・組                  | 〇年〇組～〇組<br>(名) |
| 教科書<br>副教材 | 自主教材   | 教科担任 | 〇〇 〇〇・〇〇 〇〇・〇〇 〇〇・〇〇 〇〇 |                |
| 学習目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の企業と協働し、高校生が企画するランチメニューを扱うことにより、ビジネスプラン策定→「仕入・販売活動」→「決算」という、ビジネスプランを体験する。</li> <li>・学食関係企業の運営活動の理解や、学んできたビジネス能力等を活用した他校・地域との、更なる連携の深化を目指す。</li> <li>・この学習から精神的にも経済的にも自立した個人として問題意識を持ち、今後の社会で活躍できるよう目指す。</li> </ul> |      |                         |                |

| 学期      | 月  | 単元                        | 時間 | 学習内容   | 学習上の留意点   |
|---------|----|---------------------------|----|--|---|
| 1<br>学期 | 前半 | ・ビジネスプランの策定               | 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等における学生食堂の実態や関係企業の調査・発表</li> <li>・企業経営の視点からランチメニューの規格を題材としたビジネスプランを作成</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なるランチメニュー作りに終わることなく、「いかにメニューに付加価値を付けるのか」ということに留意する。</li> </ul>                   |
|         | 後半 | ・産業現場との連携活動の実施(1)         | 24 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチメニューのプロデュース(ランチテーマを考える)<br/>※チーム制で競う形式をとる</li> <li>・様々な販売促進活動(広告・宣伝活動)</li> <li>・メニューの実態調査</li> <li>・アンケート等の作成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の役割分担を徹底させ、協働におけるコミュニケーションの大切さを意識させる。</li> <li>・企業との交渉力・説明力を重要視する。</li> </ul> |
| 2<br>学期 | 前半 | ・産業現場との連携活動の実施(2)<br>・講演会 | 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生食堂でランチメニューの販売実習</li> <li>・アンケート調査の実施</li> <li>・講演会を実施(企業・大学関係者)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の大学・企業間との交流を生かした、販売実習とする。</li> </ul>   |
|         | 後半 | ・ビジネス活動の反省・集計・データ等の整理     | 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なデータ(売上データ・フード原価・食材・諸経費など)の整理</li> <li>・損益計算書作成</li> <li>・売り上げ比較</li> <li>・ランチメニュー企画の反省</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間学んできた「簿記」、「会計」の知識を生かせるよう留意する。</li> <li>・コミュニケーション能力の向上を図る。</li> </ul>          |
| 3<br>学期 |    | ・営業報告書、決算書の作成<br>・発表報告会   | 27 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業報告書の作成</li> <li>・決算書の作成</li> <li>・発表報告会の実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間学んできた「簿記」、「会計」の知識を生かせるよう留意する。</li> <li>・プレゼンテーション能力の育成を図る。</li> </ul>          |

(5) 評価の観点

「課題研究」の評価の観点の趣旨(産業現場等における実習)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断   | 技能・表現   | 知識・理解   |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場等での経営に対する諸課題について自ら進んで取り組もうとしている。</li> <li>・校外での実習に対して積極的に取り組もうという構えや態度を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場等での経営に対する諸課題について、地域経済生活との関連から的確に把握するとともに、思考を深め、これまでの商業の知識と技術を活用し、適切に創意工夫をする能力を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場等での経営に対する諸課題について、これまで身に付けた知識や技術を活用し、処理するとともに、その成果を的確に表現する。</li> <li>・販売促進(広告・宣伝)等で学んだ技能等を活用し、アイデアを経営に反映する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場等での経営に対する諸課題について、基礎的・基本的な知識が身に付いている。</li> <li>・企業における取引・経営・販売に関する知識や、コミュニケーション・計算などの能力が身に付き自分の知識として活用している。</li> </ul> |

## (6) 授業の評価について

授業の評価については、企業との連携過程でのプロジェクトへの取組や生徒自身の商業技術の活用などの度合い、実施する連携関連そのものの分析や改善などを評価する必要がある。産業現場の一員として、課題発見、商品開発、技術活用、企業活動の理解、問題解決（探求・実験）、完成（練り上げ）の過程を一連の流れとし、指導及び評価することが重要である。

また、産業現場の実習を通じて生徒一人一人がビジネス活動を十分理解し、自己の進路等に役立てるような興味付けをする必要がある。そのためには、生徒自らが商業活動の中にいることを実感させ、社会とかかわりをもたせ、自分自身の役割を自覚させることで、商業活動のおもしろさを味わわせることが大切である。

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本年度は、「課題研究における個に応じた指導の充実と指導改善の工夫」を研究主題に設定し、「課題研究」の共通の評価規準を作成するとともに、内容ごとの授業展開の例や評価規準を明確に提示し、個に応じた指導の更なる充実を図るための授業改善と評価方法の工夫に取り組んだ。

「課題研究」は科目の特性上、生徒一人一人が設定する課題は多岐に渡っており、解決方法も生徒一人一人異なっている。そのため、どのような課題を設定しても「個に応じた指導」が必要不可欠である。今回の研究では、どこの学校でも課題の設定等に大変苦勞しながら授業を実践していることや、各学校独自の授業の展開方法や指導方法が存在していること、さらには、評価方法に至っては各校によってその規準の設定方法が違うことなどが研究を進める過程で明らかになった。

各委員の所属する学校の「課題研究」を参観したり、各学校の授業内容や、評価方法を持ち寄り、評価規準の作成や「調査・研究・実験」、「作品制作」、「資格取得」など内容ごとの指導法の研究を進めることができた。また、「産業現場等における実習」についての提言も行うことができたことは大きな成果である。

### 2 今後の課題

生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望の多様化が一段と進んでいる現在、生徒一人一人の進路希望や学習希望等にこたえていくためには、個に応じた指導の充実と指導改善の工夫が不可欠である。本研究において研究した内容について、今後も校内研修などを利用し、委員が中心となり、各学校において継続的にその授業方法や評価方法などの研究を続けていきたい。そしてこのことが、生徒一人一人が興味・関心・意欲をもって授業に参加することにつながり、生徒が主体的に授業に参加できる授業実践、評価方法につながるはずである。

今後も生徒による授業評価等を通して生徒の声も取り入れながら、個に応じた指導の充実と指導改善の工夫について研究、修養を続けていきたい。